だろうから10年間やってみましょう，という所かもしれない．最後に⑤だが，実はある意味でこれが最も明確にしなければならないことかもしれないのだが，期待に反してこれに関してあまり厳しい追及はなかったようだ．客観的判断が下しにくいという点では，仕方のない面もあろうかとは思うが．

また，研究会に集まったバラエティーに富んだ顔ぶれもこの研究会の特徴であろう．研究会会場となった基研3階の講堂の前方数列には，林忠四郎氏，成相秀一氏，佐藤文隆氏，藤本光昭氏，中村卓史氏，高原文郎氏，福来正孝氏，佐藤勝彦氏，池内　了氏，杉本大一郎氏，中野武宣氏，蓬茨霊運氏，佐々木　節氏，吉村宏和氏，観山正見氏，といった人々が並んだ．さらに，富松　彰氏，村上　浩氏，小玉英雄氏，富田憲二氏，大師堂経明氏，井上　一氏，佐藤哲也氏，松田卓也氏，稲垣省吾氏，中沢　清氏，木舟　正氏，吉井　譲氏，松岡　勝氏，佐藤修二氏，原　哲也氏らも参加し，海部宣男氏，岡村定矩氏，鈴木博子女史らもかけつけた．これだけのメンバーがそろって研究会を開くことは，めったにあることではない．そのことだけでも他に類を見ない．しかし，これに比して若手の数はあまり多いと言えなかったのはやや悔やまれる点である．何はともあれ，これから10年以上研究するであろう若手研究者にとって，この研究会は一見の価値はあったように思うのだが．

本研究会はその内容から見ても又その規模から言っても小学会とでも呼べるようなものであった．このような研究会をやることの功罪はいろいろあろうかと思うが，学会のように研究のほんのさわりだけを聞くのとは異なり各分野の問題をその背景から知ることが出来るという意味で学問的意義はあったように思う．とにかく，各分野の研究者たちが一同に会して議論しあう様を見る機会を得られたということは，一つの収穫であったことにはちがいない．実際，この研究会が『10年スケールで考えた天体物理学者の展望』を知る上でも大いに役立ったと感じた者は多いのではなかろうか．

お知らせ

東レ科学技術賞および研究助成候補者募集

上記について東レ科学振興会より本会あて推薦依頼が来ています．希望者は，学会庶務理事まで御連絡下さい．（学会推薦の締切りは10月25日です）募集の要項はつぎのとおりです．

科学技術賞……(1) 学術上の業績が顕著なもの (2) 学術上重要な発見をしたもの (3) 重要な発明をして，その効果が大きいもの (4) 技術上重要な問題を解決して技術界への貢献が大きいもの，に対し金メダルと副賞300万円．

研究助成金……科学技術の基礎的な研究に従事し，その研究の成果が科学技術の進歩・発展に貢献するところが大きいと考えられる研究を行なっている研究者，またはそのグループに対し総額1億円前後，1件1,000万円程度．但し，とくに重要と認められる研究については，3,000万円程度まで助成が考慮されます．

贈呈期日は両方とも昭和62年3月の予定．

東京商船大学一般教育物理学教室教官公募

1. 募集人員　助教授　1名
2. 所属部門　一般教育物理学
3. 担当　一般教育の物理学および物理学実験，応用物理学
4. 専門分野　物理学（宇宙物理学も含む），ただし，広い意味で実験分野の人が望ましい．
5. 着任時期　1987年4月1日
6. 応募資格　博士課程終了またはこれと同等以上の学力をもつ人で36-37歳ぐらいまでの人．
7. 提出書類　履歴書，業績リスト，主要論文別刷
8. 募集締切　1986年11月1日（土）
9. 宛先　〒135 東京都江東区越中島 2-1-6
   東京商船大学物理学教室　佐藤伸二
10. その他　封書に「応募書類在中」と朱書し，書留で送付のこと．

公開講演会――「21世紀の学術」――日本学術会議主催

この講演会は，本会議の第13期活動計画の中でたてられている3つの重点課題に沿って，21世紀に向っての学術の展望を考えようと企画されたものです．

日　時：昭和61年9月27日（土）　13時30分～17時

会　場：日本学術会議講堂（地下鉄千代田線，乃木坂下車1分）

演題と講演者

1. これからの科学の望ましい在り方
   近藤次郎（日本学術会議会長）
2. 創造的人間とその条件
   本明　覚（　同　会員・早稲田大学教授）
3. 学術研究における国際性
   西川哲治（　同　会員・高エネルギー物理学研究所長）

申込は往復はがきで9月20日までに申込むこと（先着300名）

申込先：〒106 東京都港区六本木 7-22-34
日本学術会議事務局庶務課講演係
（☎ 03-403-6291）